

全日本槍道連盟斧道
(解 説)

用具の規格

斧道は斧を武器とする武道であり、使用する斧の規格は次のとおりとする。

斧の規格

長さ 128 センチメートル（4 尺 2 寸 1 分）以内

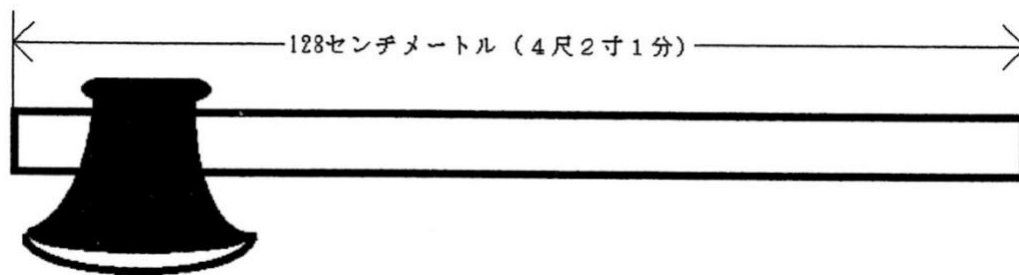
直径 特に指定なし

材質 白櫟、赤櫟等

重量 特に指定なし

形状 下図を参考にする。

斧



斧の構え方

- (1) 中段の構え (左・右)
- (2) 上段の構え (左・右)
- (3) 下段の構え (左・右)
- (4) 八相の構え (左・右)
- (5) 脇構え (左・右)

1. 中段の構え

- ①左中段の構え
- ②右中段の構え

2. 上段の構え

- ①左上段の構え
- ②右上段の構え

3. 下段の構え

- ①左下段の構え
- ②右下段の構え

4. 八相の構え

- ①左八相の構え
- ②右八相の構え

5. 脇構え

- ①左脇構え
- ②右脇構え

基本

名称

- 一本目 金構落（きんのかまえおとし）
- 二本目 水構打（みずのかまえうち）
- 三本目 水構突（みずのかまえつき）
- 四本目 火構打（ひのかまえうち）
- 五本目 火構突（ひのかまえつき）
- 六本目 土構打（つちのかまえうち）
- 七本目 土構突（つちのかまえつき）
- 八本目 金構打（きんのかまえうち）
- 九本目 金構突（きんのかまえつき）
- 十本目 木構打（きのかまえうち）
- 十一本目 払落（はらいおとし）
- 十二本目 撥上（はねあげ）
- 十三本目 打落（うちおとし）

基本は前記の 13 本あり、斧の操法の基礎となるものであって、これを修得することにより斧道形が自由かつ円滑に行われるようになるものである。

■稽古のポイント

- 1 正しい姿勢と気位を高める。
 - 2 間合がわかり、打突が確実となる。
 - 3 動作が正確、機敏、活発となる。
 - 4 個癖がなくなり、刃筋が正しくなる。
 - 5 目付け、眼が明らかとなり、気合が充実する。
- ・基本技には相対動作と単独動作の 2 種がある。
 - ・斧道の気合は、「打」斧の気合は「ヤー」
「仕」斧の気合は「エイ」と力強く腹から発声する。

一本目 金構落

打斧（中段の構え） 仕斧（脇構え）

仕 左脇に構えて、右手を上方から前方に回し、「打」の斧を打ち落とし「打」の顔面に斧頭をつける感覚で右足から一步前進。

打 左中段の構えで斧が落とされ、後退して右中段の構え。

仕 右脇に構えて、左手を上方から前方に回し、「打」の斧を打ち落とし「打」の顔面に斧頭を付ける感覚で左足から一步前進。

打 右中段の構えで斧が落とされ、後退して左中段の構え。

この動作を数回繰り返す。

二本目 水構打

打斧（正面を向く） 仕斧（中段の構え）

仕 左中段の構えで右足を前に出しながら斧を振り上げ、
左足を前に出し正面を打つ。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、右足を前に出して右中段に構える。

仕 右中段の構えで左足を前に出しながら斧を振り上げ、
右足を前に出し正面を打つ。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、左足を前に出して左中段に構える。

この動作を数回繰り返す。

三本目 水構突

打斧（正面を向く）

仕斧（中段の構え）

仕 左中段の構えで左足を前に出しながら斧先で前胴を突く。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、右足を前に出して右中段に構える。

仕 右中段の構えで右足を前に出しながら斧先で前胴を突く。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、左足を前に出して左中段に構える。

この動作を数回繰り返す。

四本目 火構打

打斧（正面を向く） 仕斧（上段の構え）

仕 左上段の構えで右足を前に出しながら斧を振り下ろし
正面を打つ。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、右足を前に出して右上段に構える。

仕 右上段の構えで左足を前に出しながら斧を振り下ろし
正面を打つ。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、左足を前に出して左上段に構える。

この動作を数回繰り返す。

五本目 火構突

打斧（正面を向く）

仕斧（上段の構え）

仕 左上段の構えで左足を前に出しながら右手で石突を突き出し前胴を突く。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、右足を前に出して右上段に構える。

仕 右上段の構えで右足を前に出しながら左手で石突を突き出し前胴を突く。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、左足を前に出して左上段に構える。

この動作を数回繰り返す。

六本目 土構打

打斧（正面を向く） 仕斧（下段の構え）

仕 左下段の構えで左足を前に出しながら左廻りに半円を描くようにして正面を打つ。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、右足を前に出して右下段に構える。

仕 右下段の構えで右足を前に出しながら右廻りに半円を描くようにして正面を打つ。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、左足を前に出して左下段に構える。

この動作を数回繰り返す。

七本目 土構突

打斧（正面を向く） 仕斧（下段の構え）

仕 左下段の構えで左足を前に出しながら斧先で前胴を突く。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、右足を前に出して右下段に構える。

仕 右下段の構えで右足を前に出しながら斧先で前胴を突く。

打 正面を向きながら一步後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央で持ちかえ、左足を前に出して左下段に構える。

この動作を数回繰り返す。

八本目 金構打

打斧（正面を向く） 仕斧（脇構え）

仕 左脇構えで右足を前に出しながら右手を右方から左方へ
薙ぎ払い、胴を打つ。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、右足を前に出して右脇に構える。

仕 右脇構えで左足を前に出しながら左手を左方から右方へ
薙ぎ払い、胴を打つ。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、左足を前に出して左脇に構える。

この動作を数回繰り返す。

九本目 金構突

打斧（正面を向く） 仕斧（脇構え）

仕 左脇構えで左足を前に出しながら右手で石突を突き出し
前胴を突く。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、右足を前に出して右脇に構える。

仕 右脇構えで右足を前に出しながら左手で石突を突き出し
前胴を突く。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、左足を前に出して左脇に構える。

この動作を数回繰り返す。

十本目 木構打

打斧（正面を向く） 仕斧（八相の構え）

仕 左八相の構えで右足を前に出しながら斧を振り下ろし
正面を打つ。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 右足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、右足を前に出して右八相に構える。

仕 右八相の構えで左足を前に出しながら斧を振り下ろし
正面を打つ。

打 正面を向きながら一歩後退。

仕 左足を後にひいて正面を向きながら斧を立てて体の中央
で持ちかえ、左足を前に出して左八相に構える。

この動作を数回繰り返す。

十一本目 払落

打槍（中段の構え） 仕斧（中段の構え）

仕 左中段に構えで注視する。

打 中段の構えで「仕」に近づき、面を突く。

仕 面突きに対して中段に構えながら後ろにのけ反り、
「打」の素槍を左に払い落とし、歩み足で近づいて
面を突く。

仕 右中段に構えで注視する。

打 中段の構えで「仕」に近づき、面を突く。

仕 面突きに対して中段に構えながら後ろにのけ反り、
「打」の素槍を右に払い落とし、歩み足で近づいて
面を突く。

この動作を数回繰り返す。

十二本目 撥上

打槍（上段の構え） 仕斧（脇構え）

仕 左脇構えで注視する。

打 上段の構えで「仕」に近づき、振りかぶって前面を打つ。

仕 面打ちに対して左斜め後方に退き、すぐに「打」の
素槍を撥ね上げ、胴を打つ。

仕 右脇構えで注視する。

打 上段の構えで「仕」に近づき、振りかぶって前面を打つ。

仕 面打ちに対して右斜め後方に退き、すぐに「打」の
素槍を撥ね上げ、胴を打つ。

この動作を数回繰り返す。

十三本目 打落

打槍（下段の構え） 仕斧（八相の構え）

仕 左八相の構えで注視する。

打 下段の構えで「仕」に近づき、引ききってから前胴を突く。

仕 胴突きに対して左斜め後方に退き、すぐに「打」の
素槍を打ち落とし、胴を突く。

仕 右八相の構えで注視する。

打 下段の構えで「仕」に近づき、引ききってから前胴を突く。

仕 胴突きに対して右斜め後方に退き、すぐに「打」の
素槍を打ち落とし、胴を突く。

この動作を数回繰り返す。

斧道形

名称

一本目	斧落（おのおとし）
二本目	鬼打（おにうち）
三本目	鬼突（おにつき）
四本目	大地（だいち）
五本目	追込（おいこみ）
六本目	風龍（ふうりゅう）
七本目	雷龍（らいりゅう）
八本目	火龍（かりゅう）
九本目	水龍（すいりゅう）
十本目	秘斧（ひおの）
十一本目	一揆（いっき）
十二本目	吹斧（ふきおの）
十三本目	槍落（やりおとし）

一本目 斧落

打斧（中段の構え） 仕斧（脇構え）

仕 脇構えで注視する。

打 中段の構えで「仕」に近づき、振りかぶって面を打つ。

仕 面打ちに対して退き、すぐに「打」の斧を叩き落とし、
「打」の顔面に斧頭をつける感覚で右足から一歩前進。

二本目 鬼打

打斧（中段の構え） 仕斧（中段の構え）

仕 中段の構えで注視する。

打 中段の構えで「仕」に近づき、振りかぶって面を打つ。

仕 面打ちに対して右斜め後方に退き、面を打つ。

三本目 鬼突

打斧（中段の構え） 仕斧（中段の構え）

仕 中段の構えで注視する。

打 中段の構えで「仕」に近づき、裏胴を突く。

仕 裏胴突きに対して右斜め後方に退きながら斧を上げ、
「打」の斧を打ち落とし裏胴を突く。

四本目 大地

打斧（八相の構え） 仕斧（地に立てる）

仕 斧頭を下にして石突に右手をつけて斧を立てる。

打 八相の構えで「仕」に近づき、面を打つ。

仕 面打ちに対して下段に構えながら右斜め後方に退き、
左廻りに半円を描くようにして甲手を打つ。

打 退きながら上段に構える。

仕 すぐに上段に構え、甲手を打つ。

五本目 追込

打斧（八相の構え） 仕斧（下段の構え）

仕 下段の構えで注視する。

打 八相の構えで「仕」に近づき、面を打つ。

仕 面打ちに対して下段に構えながら右斜め後方に退き、
左廻りに半円を描くようにして甲手を打つ。

打 退きながら上段に構える。

仕 すぐに下段に構え、前胴を突く。

六本目 風龍

打斧（八相の構え） 仕斧（脇構え）

仕 脇構えで注視する。

打 八相の構えで「仕」に近づき、面を打つ。

仕 面打ちに対して右斜め前方に進みながら石突で裏胴を突いて退く。脇構えのまま。

打 退きながら上段に構えて面を打つ。

仕 面打ちに対して退き、すぐに「打」の斧を叩き落とし「打」の顔面に斧頭をつける感覚で右足から一歩前進。

七本目 雷龍

打斧（八相の構え） 仕斧（脇構え）

仕 脇構えで注視する。

打 八相の構えで「仕」に近づき、面を打つ。

仕 面打ちに対して右斜め前方に進みながら裏面を打って退く。脇構えになる。

打 退きながら上段に構えて面を打つ。

仕 面打ちに対して退き、すぐに「打」の斧を叩き落とし「打」の顔面に斧頭をつける感覚で一步前進。

八本目 火龍

打斧（脇構え） 仕斧（上段の構え）

仕 上段の構えで注視する。

打 脇構えで「仕」に近づき、裏胴を打つ。

仕 裏胴打ちに対して退き、すぐに石突で裏胴を突き、上段に構える。

打 退きながら脇に構える。

仕 すぐに面を打ち、追い打ちをかける。

九本目 水龍

打斧（八相の構え） 仕斧（地に置く）

仕 斧先を左下に向けて置き、右手で石突近くの柄を握る。

打 八相の構えで「仕」に近づき、面を打つ。

仕 面打ちに対して両手で斧を持ちながら左斜め後方に退き、
「打」の甲手を打ち、中段に構える。

打 退きながら上段に構える。

仕 すぐに前胴を突き、追い打ちをかける。

十本目 秘斧

打斧（中段の構え）

仕斧（天に捧げる）

仕 斧を頭上に上げながら両手いっぱいにとる。

打 中段の構えで「仕」に近づき、前胴を突く。

仕 前胴突きに対して柄で受け、すぐに「打」の斧を叩き
落とし「打」の顔面に斧頭をつける感覚で一步前進。

打 退きながら八相に構えて面を打つ。

仕 面打ちに対して退き、すぐに「打」の斧を叩き落とし
「打」の顔面に斧頭をつける感覚で一步前進。

十一本目 一揆

打槍（脇構え） 仕斧（地に立てる）

仕 斧頭を下にして石突に右手をつけて斧を立てる。

打 脇構えで「仕」に近づき、胴を打つ。

仕 胴打ちに対して中段に構えながら左斜め後方に退き、
右廻りに半円を描くようにして素槍を打ち落とす。

「仕」と「打」は元の位置に戻る。

仕 中段の構えで注視する。

打 中段の構えで「仕」に近づき、面を突く。

仕 面突きに対して中段に構えながら後ろにのけ反り、
「打」の素槍を左に払い落とし、歩み足で近づいて
面を突く。

十二本目 吹斧

打槍（上段の構え） 仕斧（脇構え）

仕 脇構えで注視する。

打 上段の構えで「仕」に近づき、振りかぶって前面を打つ。

仕 面打ちに対して左斜め後方に退き、すぐに「打」の素槍を撥ね上げ、裏胴を打つ。

「仕」と「打」は元の位置に戻る。

仕 下段の構えで注視する。

打 上段の構えで「仕」に近づき、振りかぶって裏面を打つ。

仕 面打ちに対して右斜め後方に退き、すぐに「打」の素槍を撥ね上げ、前面を打つ。

十三本目 槍落

打槍（下段の構え） 仕斧（八相の構え）

仕 八相の構えで注視する。

打 下段の構えで「仕」に近づき、引ききってから前胴を突く。

仕 胴突きに対して左斜め後方に退き、すぐに「打」の
素槍を打ち落とし、前胴を突く。

「仕」と「打」は元の位置に戻る。

仕 上段の構えで注視する。

打 下段の構えで「仕」に近づき、引ききってから裏胴を突く。

仕 胴突きに対して右斜め後方に退き、すぐに「打」の
素槍を打ち落とし、裏面を突く。